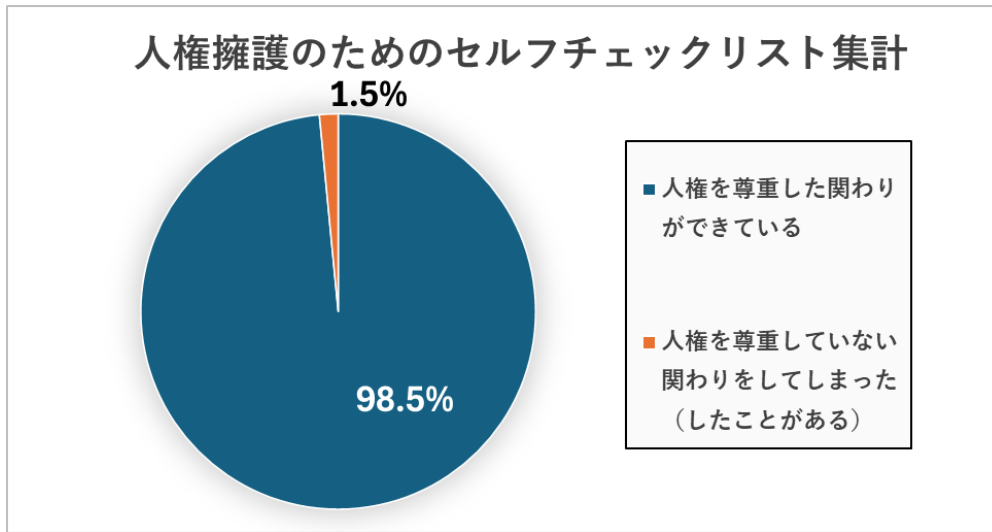


## 本町保育所

人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）

全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して98.5%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.5%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、活動の切替（片付けなど）の場面などで、なかなか行動できない児童に対しての言葉がけに日々苦慮しています。個別に声をかけたり、児童の思いを受け止め、納得するまで話をするなど丁寧に対応していますが、年齢やそれぞれの個性によって、難しい場合も沢山あります。一人ひとりの個性を大切にしながら、響く言葉がけを探り、否定的ではなく肯定的な言葉がけを実践していくことを確認しました。

どなったり、「〇〇しなさい」との言葉や、子どもが怖がるもの（鬼等）を使ったりして、子どもを保育者の思い通りに動かそうとする。

上記の項目につきましては、行事などの中には鬼や獅子舞などが出てくるものもあります。経験していないものや、急に目の前に見たことがないような物が現れたりすると、子どもたちの中に恐怖として残ってしまう場合もあります。伝承行事を大切にしつつ、子どもたちに負担のないよう計画していくことを確認しました。また、怖いものを見せたり、怖い言葉がけをしても、子どもたちを思い通りに動かすことはできないことや、子どもの思いを丁寧に聞き取り、複数の職員で対応することで、子どもも大人も心地良く、楽しく、笑顔で過ごせるようになることを確認し、日々実践していくことを確認しました。

いつまでも泣いている男の子に、「男の子だからいつまでも泣かない」や、乱暴な言葉使いをする女の子に「女の子だからそんな言葉を使ったらいけない」と注意する。

上記の項目につきましては、グループ分けなどで男の子、女の子に分けてしまいがちであることや、潜在意識の中に「こうあるべき」という思いがあるのではないかとといった議論をしました。様々な個性を重視し、差別的な声かけや対応はせず、子どもたちにもジェンダーレスの意識を持てるような働きかけをしていくことを確認しました。個々の成長発達に寄り添い、職員全員で共通意識を持ち実践していきます。